



野のくさ プロジェクトの挑戦

～雑草なんて呼ばないで！ 野草でつながる地域のわ～

日本の野草に着目した「野のくさプロジェクト」。
企業、学校、マンションなどの敷地内に、芝や園芸種を植えるのではなく、その地域に昔から見られた野草を植えることによって、地域の生態系を回復させ、ひいては地域づくりに貢献する取り組みです。公益財団法人 日本生態系協会がプロジェクトを進めています。



自然を守るというと、植樹や大規模な自然回復を中心とした活動に目がいきがちですが、海外では野草に注目した環境保全の取り組みも植樹と同程度に進められています。野草は、虫などの生きものに餌や住みかを与え、生態系の維持や生物多様性の保全に重要な役割を担っています。そして何より、草を植えることは小さな面積でも可能で、自然を守る第一歩として取り組みやすいことから「野のくさプロジェクト」が考案されました。

プロジェクトでは、まず緑化の予定地がある地域の野草を知ることから始まります。文献も参考にしながら、将来の緑地の活用方法に合わせて、植える野草の種類を検討します。例えば幼稚園の園庭であれば、草花遊びができるスミレやツクサ、踏まれても大丈夫なチガヤ、オオバコなどを同協会が提案します。

実は、植える野草を決定してからが大変。園芸種のように売っているものはほとんどなく、また、同じ種類の野草でも地域によって遺伝子が異なるため、遠い地域から持ってくることはできません。地域内から集めたタネや株分けした株を植えることで地域固有の生態系の回復を図っています。印象深いエピソードとして、地域の希少な野草を個人のお庭で株分けし、細々と育てていたものを分けていただいたことも

あったそうです。このようにスタッフやボランティアの方で手分けしてタネを探すなど、地域固有の種（しゅ）や遺伝子を持つ植物を調達することが一番大変な作業となります。また、成長してくると、外来種*など植えた野草以外の植物が生えてきてしまいます。生態系を守るためには植物を見つけて除草するなど、一般的な芝生より手をかける必要があります。そこで、緑化を進めている企業やマンションの社員や居住者の方が、一緒に手入れをするなど、維持管理を地域全体で楽しむ工夫をしています。

今後は、このプロジェクトを都市部の子どものための自然体験の場として、教育施設やマンション、福祉施設などへ広げていく予定。現状では、せっかく野草に関心を持ってタネや苗を手に入れにくいため、地域ごとにタネを保存したり、苗を育てていくための仕組みづくりにも取り組んでいくとのこと。

野のくさプロジェクトの第一歩として、身近な野のくさを庭やプランターで育ててみるのもおすすめです。



プロジェクト参加を示すプレート

取材協力：生態系研究センター 統括主任研究員 佐藤伸彦さん、主任研究員 椎名政博さん
●連絡先：公益財団法人 日本生態系協会 豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル ☎03-5951-0244



Vol.③ エコのわブック エコや環境を意識して暮らす『きっかけ』をくれる一冊を紹介します。



野に生えている草の様子や、タネの飛び方、匂いなども解説されている植物図鑑。童心に返って野原を散歩したくなる本書は、草花約330種を掲載し、持ち運びに便利なポケットサイズ。在来種を集めた図鑑が目立つなか、外来種*もあわせて取り上げているのが特徴的。

姿の似ている野草同士を正確に見分けるのはなかなか難しいことですが、見分けのポイントとなる葉と花の特徴が、拡大写真と共にわかりやすく解説され、除草の際に駆除すべき草を判断するなど実用性も抜群です。路肩や空き地、河川敷などで見慣れた野草が、実は最近になって急増し始めた外来種であることがわかると、身近な野草の生態系が急激に変化していることが実感できます。

『花と葉で見わける野草』
著/有沢重雄・写真 亀田龍吉 発行/小学館

*外来種：もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のこと。生態系や人間の生活に重大な悪影響を与えてしまうことがある。（環境省ホームページより）